

# The University Times

October 2012 Vol. 23

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by STEP × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2012

## CONTENTS

■ Visit a Global Company : グローバル企業訪問  
アクセンチュア株式会社 1 2

■ Journalist's Eye : 英字新聞記者の視点  
「シリア日本人記者殺害」/「竹島」 3

■ Studying Abroad in the U.S.A. : 私の米国留学/読んでほしいの3冊  
米国留学記/書籍紹介 4

■ News in English  
英文記事を読んでみよう 5

■ University's Challenge : 国際交流に取り組む大学  
理工系のリーダーを育てる東京工業大学 6

■ IELTS  
IELTS 奨学金 7

■ Look Around the World : 世界の名所を知ろう  
アイルランド 8

## Visit a Global Company : グローバル企業訪問

# 個の成長が社の成長となり クライアントをサポート

## Vol. 13 アクセンチュア株式会社



いまや多くの企業にとって命題となっているグローバル化への対応。いち早くその変化に取り組み、多くのノウハウを蓄積してきたグローバル企業であるアクセンチュアは、クライアントのグローバル経営を強力にサポートしている。

24万9,000人以上の社員を擁し、世界中の顧客に幅広いサービスを提供しているグローバルコンサルティング会社のアクセンチュア。日本国内でも、通信・メディア、製造・流通、素材・エネルギー、金融、公共サービス・医療といった、数多くの業界で事業を展開するなど、高い存在感を示している。

アクセンチュアのミッションは、クライアントのハイパフォーマンスの実現を支援すること。ビジネス拡大の支援や成長のサポートといったほうが分かりやすいかもしれない。海外進出、売上アップ、業務効率の改善…。その実現のために、お客さまと一緒に戦略を考え、必要に応じて業務を変え、仕組みを変え、働く人の意識を変えるのが同社の役目だ。

とはいえ、一般的にはコンサルティングの仕事はイメージしにくい。ドラマや映画では

有能な一匹狼のように描かれることの多いコンサルタントの仕事だが、実際には多くの専門家が一つのチームとなって協力・連携しなければクリアできないような難しい相談ばかりが寄せられるという。人事部の増永加奈子さんは次のように話す。

「一般的にコンサルティングというと、経営コンサルティングを思い浮かべる人がほとんどだと思います。経営戦略や事業戦略の立案、いわゆる『絵を描く』ことに特化したコンサルタントです。しかし、アクセンチュアが行うのは総合的なコンサルティング。当社には戦略を立案するグループもあれば、その戦略を実現するために業務を改革・改善するグループやシステムを構築するグループ、さらには構築したシステムをお客さまにかわって運用するアウトソーシングのグループがあり、経



本社のある赤坂インターシティ

営の改善に必要なこれら全てのサービスを一貫して提供するのが特徴であり、大きな強みなのです」

同社がサービスを提供しているお客さまは世界120カ国以上。アメリカの経済誌『フォーチュン』が発表する「フォーチュン100」のうちの92社がアクセンチュアの顧客だという。世界で最も成功を収めるこれらの一流企業から、同社が支持される理由とはいったい何なのだろうか。

「例えば、日本企業が海外市場への進出を検討していたとします。当然ながら、現地マーケットを最もよく知るの、その場所で生活する人々です。アクセンチュアは53カ国200都市以上に拠点を展開し、それぞれに経営革新のプロト、これまで手がけてきた成功事例や豊富な知見を有しています。さまざまな国籍や文化を持ったプロフェッショナルたちが協力・連携することで、世界中どこにでも対

応できる提案やソリューションを提供することができるのです」

### 自身の成長の実現こそが、最大の安定

そんなさまざまな強みを持った人材を世界中に抱えるプロフェッショナル集団・アクセンチュアが求める人材像とは？

「目的意識があって、常に進化・成長しようとする学生です。時代は非常に速いスピードで変化していて、現在の知見が次のフェーズではまったく通用しないというケースも少なくありません。自ら進んで成長しようとする人であれば、アクセンチュアの活躍できるフィールドの広さは魅力的だと思います」

コンサルティング会社の価値は人材で決まるといっても過言ではない。社員の成長なくしてアクセンチュアの成長は考えられないということだろう。

「アクセンチュアに対するクライアントの期待



人事部リクルーティング  
マネジャーの増永加奈子さん

# Visit a Global Company

グローバル企業訪問

値は常に高く、そうした緊張感の中で行うOJTは、社員にとって最も成長できる場の一つです。また、自分のペースでどこからでも受講できるオンライントレーニングのコースを1万6,000以上も用意するなど、社員の育成には多くの投資を行っています。ただし、こうした自主学習型のプログラムが生きているのも、成長意欲や目的意識を持った人がいてこそのこと。これまでも、入社時点では英語力の低かった社員が、業務に当たる中で英語の必

要性を感じ、習得していった例が数多くありますから。やはり重要なのは目的意識ですね」

最後に、これまで多くの優秀な人材を見てきた増永さんから、学生へのメッセージをいただいた。

「いまや終身雇用は崩れ、安定していると思いがちな大企業でさえ、数年先はどのようなかわからないような時代です。皆さんには、まずは自分の市場価値、すなわちマーケットバリューを高めることのできる就職先を選んで

ほしいと思います。希望する会社に行けなかったからといって就職をあきらめるのではなく、少しでも早く社会に出ることで自分を成長させてから、再度チャレンジした方がいい。就職活動はたくさんの企業の話聞ける良い機会です。どの企業であれば自身のマーケットバリューを高めることができるのか。自らの成長の実現こそが、安定への一番の近道です。ぜひともそのことを意識して就職活動に臨んでみてください」

**accenture**  
ハイパフォーマンスの実現へ

**アクセントチュア株式会社**

経営コンサルティング、テクノロジー・サービス、アウトソーシング・サービスを提供するグローバル企業。24万9,000人以上の社員を擁し、世界120カ国以上の顧客にサービスを提供している。豊富な経験、あらゆる業界や業務に対応できる能力、世界で最も成功を収めている企業に関する広範囲に及ぶリサーチなどの強みを生かし、民間企業や官公庁がより高いビジネス・パフォーマンスを達成できるよう、その実現に向けて取り組んでいる。社名は、「Accent」(「Future」を統合させた造語で、同時に「Accelerate」「Amplify」)そして「Exceed Expectation」(期待を超える)といった意味も含めている。

<http://www.accenture.com/jp-ja/>

## グローバル企業の先輩に聞く！

### 若い時にさまざまな経験ができたことは キャリアアップを描く力になる財産

**櫻井 理紗** さん  
アクセントチュア株式会社  
テクノロジー コンサルティング本部  
素材・エネルギー SI グループ



2009年入社。現在はクライアント企業に常駐し、顧客との打ち合わせや情報システムの構築作業などを日々行っている

#### Q お仕事内容を教えてください。

A 入社4年目で、お客さま企業のシステム展開プロジェクトに携わっています。昨年度に同社のシステム構築・導入を行い、現在はアジアを中心とする海外の子会社向けに展開を進めています。私は経理領域の担当です。

#### Q 学生時代に経理を学んだのですか？

A 会計学を多少学んでいたこともあって、入社後に経理関係をやりたいということを会社に伝えていました。ちょうどそのような案件が発生したことで、プロジェクトのメンバーに加わったのです。とはいえ、業務における

会計は、IFRS(国際財務報告基準)の導入など、会計基準が日々目まぐるしく変化しているため、勉強をしながらなんとか追いついていっている状況ですね。

#### Q アクセントチュアに決めた要因は？

A グローバルな仕事にも携われますし、プロジェクトには各部署から横断的に人が集められるため、アクセントチュアの海外オフィスや、国内でもさまざまなバックグラウンドを持つ人たちと一緒に働けるということが一番の決め手でした。また就職活動の時、当社の女性社員に話を聞く機会があり、働き方のイメージができたことや、一緒に働いてみたいと感じたことも大きかったです。

Q コンサルティングの仕事は非常に忙しいイメージがあります。

A プロジェクトにはフェーズというものがあり、例えばシステムのサービスインの前であれば忙しく、帰りが遅くなることもあります。一方、サービスイン後や保守運用に入ってしまうと定時に帰れることも多いです。メリハリをつけて働きたい人にとっては向いている職場かもしれませんね。働き方については個人の目指すキャリアやタイミングなどを相談しやすいのも魅力です。例えば、女性の場合は結婚、出産のタイミングで、希望すればスケジュール調整がしやすいアウトソーシングのプロジェクトなどにシフトして、子どもを保育園に預けられるようになったら再びフルタイムで働くという選択も可能なので、非常に働きやすい環境だと感じます。

#### Q やりがいを感じるのはどんな時ですか？

A 努力次第では、早い段階からチャンスを与えてもらえることです。基本的には入社して2カ月程度で現場に送り出されます。当然、大変なことも多いのですが、お客さまと直接話すことで本当に必要なものを肌で感じ、実務の中でさまざまな現場体験を上司から叩き込まれることで、自分に必要なキャリアステップを描くための力をつけることができていると感じています。

ある海外のプロジェクトに参加した際には、現地のお客さまにシステムのプランニングを提案するという経験をさせてもらいました。これはアメリカのアクセントチュアオフィスのメンバーとの共同作業だったので、大変やりがいがありましたし、若い時にそのような体験ができるチャンスももらったことは大きな財産となっています。

#### Q 海外スタッフとのコミュニケーションは主に英語ですか？

A 基本は英語ですね。限られた時間の中



海外のプロジェクトメンバーと一緒に

で効率良くプロジェクトを進めるには、日本的な間接表現をなるべく使わず、直接的に伝えるよう心がけています。語学に関しては、学生時代にあちこちに短期留学に行くなどして、少しずつ学んでいました。ビジネスに必要な表現などは、オンライントレーニングを活用したり、メールの文章やコミュニケーションのログを上司に添削してもらうなど、OJTと組み合わせて学んでいます。

#### Q 今後の目標を教えてください。

A おそらく今後2、3年くらいは、現在のプロジェクトで、よりたくさんの国にシステムを展開していくことになると思います。その間に、ある程度自分でプロジェクトを引っ張っていく立場に成長したいと思います。その後はここでの経験を生かして、新たなプロジェクトを立案・提案できるポジションへとシフトすることが目標です。

#### Q 学生へのアドバイスをお願いします。

A 多くのクライアントやプロジェクトを抱えるアクセントチュアは、すでにやりたいことが決まっている方にも、いろいろな経験がしたいという方にとってもオススメの会社です。若い時に深く専門性を磨くこともできますし、ビジネスを大局的に俯瞰できる総合力も身に付けることができます。また、グローバル企業ということで、世界の動きを感じながら働きたいという人にもピッタリです。ぜひここで、自らのチャレンジしたい思いをかなえてください。

## 櫻井さんのお仕事アイテム拝見



「仕事を効率的にすすめるため、デジタルとアナログをうまく組み合わせ活用しています。ノートPCはもちろん私の仕事のすべてが詰まった心臓部。スマートフォンは、外出時のメールチェックや情報伝達・情報共有として、PC代わりに使用します。ノートには思い浮かんだアイデアをとりあえず走り書きしておくなど、頭の中を整理するのに役立っています。後々これが資料などに反映されるのです」

## Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

## 日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る  
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 13 by Hongo Jun

日本で起こっていることを外国人に伝えるには、物事の背景を理解し、分かりやすく説明するスキルが求められる。このコーナーでは、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを英字新聞 The Japan Times の記者に教えてもらう。今回は、シリアで日本人ジャーナリストが死亡した事件と最近クローズアップされている韓国との領土問題について、本郷淳記者に伺った。



殺害された山本美香さんと共に取材活動を行っていた佐藤和孝さん SATOKO KAWASAKI

## ■シリアで殺害された日本人ジャーナリスト

- The Syrian government bears the responsibility of investigating the death of journalist Mika Yamamoto in Aleppo and bringing to justice whoever gunned her down, her colleague and partner said
- アレッポで死亡したジャーナリスト山本美香さんについて、シリア政府は調査を行い、誰であれ彼女を銃で殺した者を裁くべき責任を負っていると、同僚でありパートナーである人物が語った。

内戦の続いているシリアの街アレッポで、8月20日、日本人ジャーナリストの山本美香さんが、銃撃戦に巻き込まれて死亡しました。行動を共にしていたジャーナリストの佐藤和孝さんは、日本のシリア大使館に対し、山本さんの死の真相の調査を正式に依頼しました。佐藤さんによると、犯行はジャーナリストを狙って意図的に行われたのではないかということです。

シリアで起こっている騒乱は、一般的

に、近年始まった「アラブの春」という民主化運動の一環と考えられています。長年権力の座にある独裁者に対し、一般市民がデモや暴動によって抗議し、国の体制を変えようとするものです。

シリアでは、約30年間独裁政権の座にあった父親の後を継ぎ、バッシュアル・アサドが、2000年から大統領を務めています。チュニジアやエジプトでは、市民が大統領を辞職・追放に追い込む形でいったん終息しましたが、シリアでは

単に市民の抗議運動にとどまらず、政府軍が反政府勢力を武力で弾圧してきたことから、国中に戦闘が広まりました。

アメリカなど欧米の国々はシリア政府を批判し、国連の安全保障理事会はアサド政権に対する制裁を決議しようとしていますが、逆にシリア政府を支持するロシアや中国は、それに対する拒否権を発動しています。こういった国際的な意見の不一致も、解決の糸口が見えない理由のひとつとなっています。

## 記者が標的にされた？

山本美香さんは、アフガニスタン、イラクなど紛争地で取材活動を続けてきたフリーのジャーナリストです。パートナーの佐藤和孝さんとは、同僚であると同時に事実婚の関係にあり、長年一緒に取材を続けてきたとのこと。今回彼らは、反政府軍の兵士たちと行動を共にしていました。政府軍の兵士が「記者を標的に

するよう指示された」という証言を行ったことから、取材活動妨害のためジャーナリストと知りつつ意図的に殺害したのではないかと疑いが強まり、佐藤さんはシリア政府に正式に調査を依頼したのです。

シリア政府は、「山本さんらは適正なビザを持って入国しておらず、政府に責任はない」とコメントしました。山本さんは隣国のトルコ国境から入国しましたが、そのとき国境は閉鎖されており、反政府軍の助けを得てひそかに入国したようです。このように、フリーのジャーナリストは、自分の考えで自由に行動し、正規の手段によらず戦地に入って取材することがあります。それが利点である一方、非常に危険な状況に身を置くことにもなります。佐藤さんは「今後も取材活動を中断することはない」と語っていますが、大変難しい、厳しい仕事であることは確かです。

\* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120905a3.html>

## ■竹島問題が日本と韓国の関係を悪化させる？

- South Korean President Lee Myung Bak's visit to the pair of disputed islets in the Sea of Japan raised tensions between Korea and Japan to an unprecedented level, where now it appears impossible to even agree to disagree on their sovereignty.
- 韓国の李明博大統領が、問題となっている日本海の小島へ訪問したことにより、日韓間の緊張はこれまでになく高まり、見解の不一致を認めることすら難しくなっているようだ。

日本海に浮かぶ、日本と韓国のちょうど中間に位置する竹島は、韓国では「独島」(トクト)と呼ばれ、日本と韓国は長年その領有権を争ってきました。日本政府は、1905年に日本がそこを自国の領土と規定するまでは、誰の領土でもなかったと主張しています。

一方、韓国は、その島は6世紀ごろから韓国人によってその存在が認識されていると主張し、第二次世界大戦後、日本が植民地としてきた場所を韓国に渡すことになった時、竹島も含めるべきであると要求しました。それが受け入れられないと、一方的に軍隊を送って島を支配し、今日まで日本の漁船などを寄せ付けな

ようにしてきたのです。

竹島は、男島、女島の2島とその周辺の小島からなり、その面積は約0.21 km<sup>2</sup>と、東京の日比谷公園ほどの広さしかありません。しかし、周辺の海は非常に資源が豊かで、海底には鉱物やガスが埋まっているとも考えられています。

日本の専門家によると、例えば江戸時代に本土の漁師らが徳川政府から竹島でアワビやアシカなどを取る許可を得たという記録があります。当時の島に何ら領土的な紛争はなく、日本の漁師はごく普通に島と本土を行き来していたようです。

一方、韓国は古くからその島を自らの領土と認識しており、日本が1905年に

自らの領土であると発表する前から、事実上韓国が支配していたというのです。

ただし、長年 agree to disagree (見解の不一致への賛同)ともいえる、領土問題があるということ認識しつつも、あえてすぐにその問題を解決しようという動きはありませんでした。それが、今回の李大統領の訪問により事情が変わり、日本政府としても、何らかの対応策を示さずにはいられなくなったのです。

## 領土問題がクローズアップされた理由は？

一部には、従軍慰安婦問題に対する日本政府の対応の不满を持った韓国政府が、日本に抗議する形で竹島の領土問題を持

ち出したという声があります。また、韓国で大統領選が迫っており、李大統領が外交問題に取り組んでいるというアピールだという人もいます。

一方で、韓国の経済力が強まり、国際的な競争力も増してきていることから、以前よりも日本に対して自国の権利を主張しやすくなっているのではないかと考え方もあります。

急に対応を迫られた日本では、両国の通貨を安定させる目的で結んでいる日韓通貨スワップ協定を解消してもよいのではないかと政治家も出るようになりました。日本で総選挙を控えており、政治家が竹島問題にどう対応するか注目されます。

\* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20120905f1.html>



李明博大統領が、突然竹島(独島)を訪問

KYODO PHOTO

## ●今月の記者●

本郷 淳さん  
JUN HONGO

2006年ジャパンタイムズ入社。法務省、官邸、厚生労働省などの担当を経て、現在は主にビジネス・経済のニュースを担当。領土問題・原発・総選挙もカバーしている。

# Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

Studying Abroad in the U.S.A.

## 私の米国留学

アメリカ留学も IELTS の時代へ

～IELTS はアメリカの約 3,000 の大学・プログラムで認定されています～

アメリカの大学や大学院では、これまで多くの日本人学生が学んできました。そして現在もまた、夢を抱いた学生たちが留学しています。彼らはどんな留学生活を送り、留学で何を感じたのでしょうか。このコーナーでは、留学経験者や現在留学中の学生に、留学の様子やメリット、英語学習、アメリカの魅力などについて伺います。

本コラムは以下の 2 団体の協力により連載をしております。

■ JTSAU(米国大学院学生会)http://gakuiryugaku.net/ ■ USCANJ(アメリカ学部卒業生ネットワーク)http://www.uscanj.net/



### 人と違うことが評価される環境

スタンフォード大学大学院 大倉 有麻さん

#### 花火職人のような研究

日本での学部時代に 1 年間の交換留学でアメリカの大学教育を体験し、その質の高い教育環境の下で学位を取りたいと思い、留学を決意しました。海が大好きなので、海の近くに住めるカリフォルニア州の大学を選びました。

僕の研究テーマは、アルミニウムの燃焼です。朝 9 時～10 時頃に研究室に向かい、花火職人のように金属の粉を集めて別の粉と混ぜたり、ふるいにかけてたりなどして準備した金属粉を燃やし、その燃焼特性を測定しています。昼食は学校のカフェテリアで食べる日もあれば、自宅に戻って料理する日もあります。その後、研究室に戻り、夜の 6 時～10 時頃まで再び花火職人のような作業が続きます。夜は 6 時～10 時頃の間に戻り、発表用のスライドを作成したり、書類を書いたり、論文を読んだりして過ごしています。

#### 自分のやりたいことを考える機会

アメリカで教育を受けるに当たって、英語による授業だからといって、授業が分からないということはありません。授業はしっかりと構成されていて分かりやすく、教えることが上手な先生が多いと思います。ただ、予習・復習をしないとついていけませんし、毎週宿題が出るので、皆必死でやります。それでも周りの学生の意欲が高いので、自



修士の卒業式にて。右が大倉さん

分へのよい刺激となって勉強できる点が魅力です。

カリフォルニア州は、とても多くの人種が集まる、まさに「人種のるつぼ」。僕はルームメイトとして、ペルー人、チリ人、そして、アメリカ人と生活したことがあります。研究室にも、世界中から学生が集まり、アメリカと他国のアイデンティティーが混じり合って生活・思考が構築されています。そこでは「皆と一緒に振舞う」ということが不可能です。むしろ皆と違うことが人として重要であり、面白いと評価されるのです。そのため自分のやりたいことを真剣に考える機会が増えます。これが、僕が留学して得た、小さくても大きな変化です。

#### 大倉 有麻さん プロフィール



1985 年生まれ。日本の大学を卒業後、2008 年にスタンフォード大学に留学。現在、機械工学科熱科学専攻博士課程。



### 世界中の学生と切磋琢磨できる

会社員 (ミシガン大学卒) 村田 友紀さん

#### 友人との関係は一生モノ

高校卒業当時、世界的な化学者になりたかったため、米国への留学を決めました。ミシガン大学に入学したのは、同大学に在籍していた研究者の知り合いから勧められ、また施設が整っており、研究費も潤沢にあったので、とても魅力的に感じたからです。都市部ではなかったので、勉学に集中できるとも考えました。

留学中は、日中はクラスに出席し、夕方は宿題、予習、グループワークを行う日々。研究室での作業や、家庭教師のアルバイトも行っていました。

ミシガン大学は米国内でも屈指のレベルに値する、高等教育機関ですが、それ以上に素晴らしいのは、美しいキャンパスと、魅力的な学生です。学生は非常にフレンドリーで、卒業生も世界中におり、ネットワークが広がります。私も、共に学んだ彼らとの交友関係を大切にしていよかったです。大学生活で出会った友人との関係は一生モノです。

#### 努力すれば結果がついてくる

アメリカで学ぶことの最大の魅力は、世界中の学生と切磋琢磨できることです。いろいろな考えを持った学生たちと議論の場を設けることで、物事の考え方が身に付きます。また、偏った概念の枠を超えて、柔軟な思考ができる



講師として高校生に日本語を教える体験も

ようになったと私は思います。また、さまざまなバックグラウンドを持った個人を尊重しながら日々生活するアメリカから、日本人は多様性について大いに学ぶところがあるのではないのでしょうか。

アメリカでは、努力すれば必ず結果がついてきます。素晴らしい学業成績をおさめれば、賞や奨学金を受け取ることも可能ですし、私の場合は、学部時代の研究で論文を発表することもできました。

また、チャレンジしやすい環境も魅力です。失敗に対してとても寛大で、そこから学び、良い結果を出した時には、皆から称賛を受けます。これぞ、アメリカがこれまでチャレンジ精神旺盛なリーダーを生み出してきたゆえんだと思います。

#### 村田 友紀さん プロフィール



1985 年生まれ。高校卒業後、コミュニティカレッジを経て、ミシガン大学に編入。2008 年に卒業後、現在は東京の IT 企業勤務。

JTスタッフがオススメする

## 読んでほしいこの 3 冊



世界で活躍するには、語学力のみならず、人間の奥深さも大切。読書を通じて、見聞を広めよう。このコラムでは毎回、ジャパントイズのスタッフが大学生に向けてお薦めする本をご紹介します。

● 今月の推選人 ●

クロスメディア営業部 湯浅 美佳 (ゆあさ みか)

オススメ 1

### 給料で会社を選ばな

デザイン会社での見習いから、BS 放送のプロデューサー、Yahoo! Japan などを経て「東京ガールズコレクション」を仕掛けるまでの成功を収めた佐藤典雅氏。行動力とアイデアを武器に自らの希望の仕事を得てきた佐藤氏が、独特のキャリアアップのノウハウを指南してくれる。実体験に基づいたノウハウが 4 ページごとに Q&A 形式で書かれており、ページをめくるたびに新しいヒントが得られる。

佐藤典雅 (中経出版)



オススメ 2

### 仕事ができる社員、できない社員

トリンプを 19 期連続増収増益に導いた吉越浩一郎氏。常に結果を出して、会社が手放したくないと思う人材はどんな人なのか? 実際に吉越氏が会社を立て直した時の経験に基づいて、「できる社員」と「できない社員」の違いが分かりやすくまとめられた本。数々の苦境を乗り越え、会社を成長させた吉越氏だからこそ説得力があります。組織という組織で働く全ての人を読んでおきたい一冊。

吉越浩一郎 (三笠書房)



オススメ 3

### バフェットの教訓

アメリカの著名投資家ウォーレン・バフェットの投資理論をベースに、彼の人となりを知ることができるエピソードが豊富。投資先のビジネスが拡大していく過程を見るのが楽しくて投資を行ってきたというバフェット氏。好きなことを突き詰め、大金持ちになっても自分の人生観がぶれずにオマハの田舎での生活を楽しんでいるバフェット氏から学ぶことは多いでしょう。投資、キャリア選択、人生の全てに役立つ本です。

メアリー・バフェット&デビッド・クラーク (徳間書店)



## News in English

英文記事を読んでみよう

*This month's selections from The Japan Times*

## Japan losing its golden grip on Olympic judo

Minoru Matsutani  
STAFF WRITER

Judo became an Olympic sport at the 1964 Tokyo Games and was dominated by the country of its origin until the 2008 Summer Olympics in Beijing.

This summer in London, Japan's men failed to win a single gold medal in judo and its women claimed just one. It was the first time since judo's Olympic debut that the men failed to grab gold.

Have Japan's judoka become weaker or have those in other countries gotten stronger? Here are some questions and answers:

**What is the origin of judo?**

Jigoro Kano opened a dojo in Tokyo in 1882 to teach a style of jujitsu he later called judo, according to the Japanese Olympic Committee.

Kano was deemed the originator of judo by the International Judo Federation, which was founded in 1951 and based in Budapest. Kano also was the first Asian member of the International Olympic Committee, according to the IJF. The All Japan Judo Federation was founded in 1949.

**How strong was Japan in Olympic judo?**

From the Tokyo Games until Beijing, Japanese judoka won 35 gold medals. France, its nearest rival

during that time, bagged 10, according to the IOC.

The 2004 Athens Games saw Japan collect its highest gold medal haul, winning eight.

**How did Japan's judoka fare in London compared with other judoka?**

In terms of gold medals, Japan and six other countries tied for fourth place with one each. Russia took three golds and France and South Korea won two each.

In terms of all medals, Japan and France shared the lead with seven, followed by Russia with five.

**Why did Japan get only one gold in London?**

Experts point to the internationalization of judo and the rise of strong foreign contenders.

Yasushi Oishi, 69, a coach at the Oishi Dojo in Obu, Aichi Prefecture, where several Olympians train, said judo has become especially popular in France.

"France has been very open to judo and lots of Japanese judoka went to coach there. Now judo is popular as a sport and parents want their children to learn it because of its focus on strict sportsmanship and discipline," Oishi told The Japan Times.

Also, France has lured talented judo coaches by offering them stable positions as government workers despite their lack of French citizenship, he said.

"It's very good for us that judo has become a globally recognized sport," he said.

Oishi also noted that Japanese judoka outnumber their foreign counterparts by a great deal, which in many cases means their foreign counterparts receive more attention in a more devoted training environment that receives nationwide support over the four-year run-up to the games.

**Does Japan hold high expectations for Olympic judo?**

Yes. From Barcelona to Beijing, judo accounted for 56 percent of Japan's gold medals and 37 percent of all its medals combined.

In London alone, the one judo gold accounted for 14 percent of the seven Japanese golds and the seven total judo medals 18 percent of the 38 medals Japan won overall.

"In the future, it will be difficult for Japan to get so many medals in judo," Oishi said. "We should not place too much pressure on Japanese judoka. Japanese judo has not gotten weaker; other countries have become stronger."

**Who has won the most Olympic gold medals in judo so far?**

Tadahiro Nomura won three gold medals, one each in Atlanta, Sydney and Athens. Nobody else has won as many golds in Olympic judo, according to IOC statistics.

Hitoshi Saito won two golds, one



Down and out: Japanese judoka Daiki Kamikawa (below) grapples with Iha Makau of Belarus on Aug. 3 at the London Olympics. Daiki lost the match, which left the Japanese male judo team bereft of Olympic golds for the first time since the sport was introduced at the 1964 Summer Games in Tokyo. KYODO

in Los Angeles and the other in Seoul, and Ryoko Tamura (now Tani) did likewise in Sydney and Athens.

Likewise, Austrian Peter Seisenbacher took golds in Los Angeles and Seoul, while Poland's Waldemar Legien did the same in Seoul and Barcelona. Frenchman David Douillet got one gold in Atlanta and another in Sydney, and Dongmei Xian of China took the center podium once in Athens and once in Beijing, according to the IOC data.

Dutchman Willem Rusla won two gold medals in Munich, in the 93-kg class and in the open category, which was eliminated in 1988. The heaviest category in judo now is the 100-kg-plus class.

## Shin-Okubo denizens, fans counsel calm

Kazuaki Nagata  
STAFF WRITER

The rising tensions between Tokyo and Seoul are best eased by level-headed diplomacy for the sake of both nations, said people interviewed last month by The Japan Times in Tokyo's Korean-centric Shin-Okubo district.

Tensions have been escalating over South Korea-controlled islets in the Sea of Japan that are claimed by Japan, which calls them Takeshima, and provocative remarks by South Korean President Lee Myung Bak, including that Emperor Akihito should apologize for Japan's colonial rule of the Korean Peninsula.

Lee visited the islets, which South Korea calls Dokdo, on Aug. 10, drawing Tokyo's ire.

"As a Japanese, I think the remark that (Lee) made about the Emperor was disrespectful ... but I think the two countries shouldn't get

emotional" and should discuss the issue more calmly, said Ishii, a woman in her 40s from Yokohama who gave only her family name.

Ishii, who was with a friend, said she comes to the area near JR Shin-Okubo Station with friends about once a month to eat Korean food and check out products dealing with Korean celebrities.

The area is widely known for its more than 100 Korean restaurants and shops, which attract fans of many nationalities.

"The territorial issue has nothing to do with cultural exchanges," she said, adding that her interest in South Korean TV dramas remains intact.

Business owners in the district said the diplomatic spat has not had an economic impact, but it has made them feel uneasy.

A Japanese man in his 40s who runs a cafe in the district said Lee's actions, including refusing to receive a personal letter from Prime

Minister Yoshihiko Noda, have appeared to be provocative, and he hopes Seoul handles the situation more calmly.

Asked if the rising tensions have caused a drop in visitors and business in the district, he said there seems to be fewer people on the streets. However, he added he is not sure if this is because of the bilateral row or due to the sweltering heat.

In any case, he said, a deterioration in diplomatic relations doesn't help the Japanese and South Korean workers in the area.

For instance, a group of Japanese held a rally in the Shin-Okubo district and damaged some of the Korean stores, he said.

His store normally makes it a rule not to allow any women to work alone at night, but he added, "I have been especially careful these days."

A 53-year-old Korean woman who



Business as usual: People check out products outside a store selling Korean merchandise in Shin-Okubo, dubbed Tokyo's Koreatown. KAZUAKI NAGATA

works at a store that sells goods promoted by Korean celebrities said her store has not been affected by the political conflict.

She said she thinks Takeshima is South Korea's territory but doesn't want to see the tension escalate and hurt the two countries' relations.

"It's really uncomfortable. I'm working here," she said, adding she hopes the two governments somehow find a peaceful solution in the near future.

# University's Challenge

国際交流に取り組む大学

## 海外ネットワークを生かし 理工系のリーダーを育てる

### 東京工業大学

昨年創立130周年を迎えた、理工系の専門教育機関として長い伝統を誇る東京工業大学。海外の約50の大学と協定を結び、学生を積極的に送り出している。さらに、世界で活躍する人材を育てる「グローバルリーダー教育院」の取り組みも行われている。三島良直副学長らに、これまでの成果と今後の目標について伺った。

#### 海外のトップクラスの大学と提携

「海外とのやりとりが日常的なものになる中、日本の企業は、理工系においても、グローバルに活躍できる人材を求めています。本学は、派遣交換留学をはじめとするさまざまな留学制度を設け、海外でリーダーシップをとることができる人材の育成を目標としています」と、東京工業大学の三島良直副学長。派遣交換留学とは、東工大に在籍したまま、協定先の大学に1年以内の留学ができる制度で、留学先の授業料は免除される。現在約23の国と地域に約50の協定校があり、年間180人の学生を送り出すことができる体制を整えているそうだ。「協定先には、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校、ドイツのミュンヘン工科大学など、理工系においてその国のトップクラスにある大学がそろっています。これまではもっぱら欧米の大学に目が向いていましたが、最近はアジアの大学に関心を持つ学生も増えています」

派遣留学の協定校のみならず、東工大は日本を代表する理工系大学として、各国の主要大学との交流ネットワークを構築している。そのため、学生はさまざまな方法で海外の大学で学ぶ機会を得られるようになっていく。

例えば、中国の清華大学、香港科技大学、韓国科学技術院などとともに「ASPIRE リーグ」(Asian Science and Technology Pioneering Institutes of Research and Education) を結成、アメリカのマサチューセッツ工科大学(MIT)、カリフォルニア工科大学(CALTEC)、ヨーロッパのIDEA リーグ(理工系の代表的な大学連合)と連携し、交換留学プログラ



専門は材料物理学。東京工業大学大学院修士課程修了、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校で博士号を取得した三島良直東京工業大学理事・副学長

ムなどによって、理工系の国際的なリーダーの養成に努めている。「短期のサマープログラムでは、これらの大学との間で、17の大学から1人ずつ外国人学生をサマープログラムで受け入れ、同数の本学学生を派遣する枠組みを作りました。これからその数を増やしていきたいと考えています」と、有賀理国際部長。なお、清華大学と韓国科学技術院とは、「日中韓先進科学技術大学教育環」という独自のネットワークを持っており、相互の大学で単位を取ることができる仕組みを整えている。清華大学とは、東工大と清華大学の修士号を同時に取得できるダブルディグリープログラムを設けているが、最近は、日本から中国に行く学生が増えている。

#### 留学に役立つ英語を学内で習得

英語圏以外の留学に当たっては、これまで言葉の問題が大きな壁となることもあったが、最近は、日本国内で英語での授業が増えているのと同様に、海外でも、英語で受けられる授業や参加できるプログラムが増えている。例えば、「JAYSSES 日本アジア理工系学生交流プログラム」では、タイ、インドネシア、ベトナムといったアジアの国の企業・政府機関・大学を訪問、日本の技術が与える影響を実体験として学ぶプログラムを、全て英語で実施している。

東工大では、英語は普通の授業の中で学ぶほか、留学に備えて学びたい学生向けに、英語の選択科目の中で「留学セミナー」を実施。また、夏休みや春休みには、外国語研究教育センターによる集中講座を無料で開講している。この外国語研究教育センターでは、ネイティブスピーカーの教師と気軽に会話を楽しむことができる「English Cafe」を開催、留学に役立つ、実践的な英語に親しむためのさまざまな機会が提供されている。

さらに、大岡山キャンパスの留学生センターの隣には、外国人と日本人との交流の場として「インターナショナル・コミュニケーション・スペース」を設置。常時海外ニュースを流し、英文雑誌なども閲覧可能になっている。週1回昼休みには、「THINK ALOUD」という人気イベントを開催。映画やサイエンス、日常生活の中の出来事などについて、英語でディスカッションを行うものだ。同大の外国人教員が中心となって開催、学生だけでなく教員、職員が自由に参加し、活発に意見が交わされてい



目黒区大岡山に位置する大岡山キャンパス

るという。

なお、同大では第二外国語としてドイツ語やフランス語、中国語なども選択科目として学ぶことができ、最近は就職に有利なようにと、中国語を学ぶ学生も増えているそうだ。

#### グローバルリーダーを専門に育成

東工大では学部生の9割が大学院に進むとあって、就職までの学生生活・研究生活の送り方について、比較的長い期間の中で検討することができる。博士課程進学率も比較的高い中、昨年からは、修士・博士課程を一貫した教育課程「グローバルリーダー教育院」が設置された。

特別に選抜された学生を対象としたプログラムで、自らの専門分野について深い知識を得ると同時に、他の科学技術分野についても学び、コミュニケーションのスキルも習得。卒業後は国際的な研究機関などでリーダーとして活躍する人材を育てることを、はっきりとした目的として掲げている。

選抜に当たっては、2泊3日の合宿を実施。ディベートやプレゼンテーション、面接などが行われ、リーダーとしての素養が判断される。履修内容はグループワークが多いのが特徴で、海外・国内の企業・研究機関でインターンシップを行う「オフキャンパス教育」も含まれている。現在この教育院で学んでいる学生は、「科学者として政策決定に携わりたい」「エネルギー問題に取り組み、社会システムを変えたい」といった、大きな目標を持っているそうだ。

#### キャンパスに多数の外国人学生

理工系の大学としては、学内で外国人学生と接する機会が非常に多いのも、東工大の大きな特徴である。科学技術大国日本を代表する理工系大学として、古くか

ら大勢の留学生を受け入れてきた歴史があり、現在のように「国際化」が日本の大学で全面的に推進されるようになる以前の1980年代から、海外の大学と活発に交流してきた。昨年は、学部・大学院合わせて1,252人の留学生を受け入れたとのこと、実に学部生の4.6%、大学院では32%もの学生が留学生ということになる。「中国、韓国、タイなどアジアからの学生が多いのですが、皆、研究に対して非常に積極的で、英語力も高い。日本人学生も留学生も同じ研究室の中で学んでいるので、日本人の学生にとっては、いい刺激になるようです」と三島副学長。

東工大では、全ての授業が英語だけで履修できる「国際大学院プログラム」を10年以上前から設けているが、これも外国人学生が学びやすい理由の一つ。ちなみに、このプログラムには日本人学生も参加することができ、外国人学生と同じ教室の中で英語での授業を受けるという環境を、学内で体験することができる。

「外国人学生は、主にエネルギー問題、環境問題など差し迫った問題について学び、自国に帰ってその知識を生かしたいと考えている人が多いようです。また、ロボット、スーパーコンピューターなど、日本から昔から強いとされている分野に関心がある留学生も多いですね」

最近は国際的な競争力のある外国人学生を求める企業も多いことから、日本に残って就職する学生の数も増えつつあるそうだ。「本学では以前から多くの企業と連携し、社会で求められる人材を育成してきました。日本人学生にせよ、外国人学生にせよ、大学で研究生活を送ってそれで終わりというのではなく、将来のグローバルなキャリアパスを明確に描くことができるよう、これからも支援していきたいと考えています」

#### 東京工業大学

1881年に東京職工学校として設立。日本を代表する理工系総合大学。開発時日本最速を誇ったスーパーコンピューター「TSUBAME」など、その研究成果は世界から注目を集めている。東京の大岡山、田町、神奈川県すずかけ台にキャンパスを持つ。

## IELTS

IELTS 奨学金

● 海外で学び、社会に貢献 ●

IELTS北米奨学金  
IELTS Study UK 奨学金

「IELTS北米奨学金」「IELTS Study UK奨学金」の授賞式が、8月1日、東京・千代田区の駐日英国大使館ニューホールで開かれた。この奨学金制度の概要と、受賞者たちの声を紹介しよう。

## 北米・英国への留学生に支給

「IELTS (アイエルツ)」は、総合的な英語力を測定するための世界的な検定試験。このIELTSによって英語力を証明した上で留学する人に与えられる奨学金制度が、昨年からは実施されている。

今年「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」という2つの奨学金を設け、アメリカ・カナダへの留学希望者と英国への留学希望者を選抜。それぞれに留学資金や航空券などが支給された。

「IELTSは世界135カ国で受験されている信頼性の高い試験。この奨学金制度によって、より大勢の人が留学に目を向けてくれることを願っています」と、奨学金授賞式であいさつに立った駐日英国大使館公使デーヴィッド・フィトン氏。

今回の受賞者は、アメリカ・カナダに留学



駐日英国大使館公使デーヴィッド・フィトン氏が受賞者に励ましの言葉を贈った

する5人、英国に留学する3人の計8人で、高校を卒業して海外の大学に進学する人、大学の留学制度を利用して在学中に渡航する学生、専門性を高めるため海外で学ぶ社会人など、さまざまなバックグラウンドを持つ人が集まった。

アメリカ・ペンシルベニア州にあるSwarthmore Collegeで教育心理学を学ぶという植田龍也さんは、2012年3月に日本の高校を卒業したばかり。小学校・中学校と5年間アメリカで暮らしていたことがあり、「ぜひまたアメリカで学ぶ機会を得たい」と願っていたという。「IELTS奨学金のことは、学校の先生の紹介やインターネット上の情報から知りました。アメリカで教育について学んだ後は日本に戻ってきて、日本の教育の向上に貢献できるような仕事がしたいと思っています」。アメリカの大学の授業は秋からだ、それまでは母校である高校で、インターンとして働いているという。

国際基督教大学在学中の名城万紀子さんは、カナダのThe University of Albertaで、多文化教育を学ぶ。「移民教育に興味があり、ぜひ多民族国家であるカナダで勉強したいと思っていました。奨学金の審査では面接があり、面接官の方々が、私が将来やりたいと考えていることについて、熱心に聞いてくださったのがうれしかったですね。自分がやるうとしていることには意義があるのだと、改めて実感することができました」

## ビジョンがある人を応援

この奨学金への応募資格は、アメリカ・カナダまたは英国に留学する人で、IELTSのオーバーオールスコア(総合評価)が6.0



左から「IELTS Study UK 奨学金」受賞の家村美輝さん、「IELTS 北米奨学金」受賞の植田龍也さん、瀧澤馨さん、名城万紀子さん

以上であること(IELTSの最高スコアは9で、一般に海外への大学留学には6.0以上必要であるとされる)。

希望者はまず留学によって自分がどう周囲に貢献できるかということについて、250ワードのエッセイを提出。このエッセイによって選考対象者が絞られ、二次審査の面接に合格した人が、最終的に受賞者となる。「ただ外国でやりたいことがある、日本を離れて自分探しをしたいというのではなく、海外で学んだ後、社会に貢献する方法を具体的に示すことができるかどうかを、選考の基準としました。受賞者の中には、カリフォルニアで太陽光発電について学び、エネルギー問題の解消に役立てたいという人もいれば、かつてアフリカで支援活動をした経験を生かし、アフリカの食糧問題解決について学びたいという人もいます。はっきりとしたビジョンを持っている人ばかりで、これから先どのような活躍を見せてくれるか、楽しみにしています」と、選考担当者。

今後IELTSを受験したり、奨学金募集に応募したりしてみたいという人のために、その概要を紹介しておこう。

## ■ IELTS (アイエルツ)

「リスニング」「リーディング」「ライティング」の筆記試験に加え、面接による「スピーキング」試験を実施。東京・大阪・広島・福

岡・札幌など、全国12都市の会場で実施、試験は2日間に分けて行われる。申し込みは日本英語検定協会のウェブサイトまたは郵送で。テスト結果は1から9までのバンドスコアで表示され、留学を希望する場合は、IELTSの成績証明書を出願先に提出することで、英語力の証明となる。主に英国、アメリカ、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドの高等教育機関で利用される。

## ■ IELTS 北米奨学金 (2012年度)

アメリカまたはカナダの大学・大学院へ留学する日本在住者が対象。IELTS 北米奨学金事務局が受賞者5人を選考。学費補助として1人につき6,000米ドルを支給。

## ■ IELTS Study UK 奨学金(2012年度)

英国の大学・大学院へ留学する日本在住者が対象。ブリティッシュ・カウンシルが受賞者3人を選考。ロンドン～成田間の往復航空券を支給。

## ■ 2013年度募集

2012年10月初旬頃にブリティッシュ・カウンシルのウェブサイト上で詳細発表。

<http://www.britishcouncil.or.jp/exams> でご確認ください。

※いずれもIELTSのオーバーオールスコアで6.0以上を取得、入学の際に求められる英語力をIELTSで証明する必要がある。

IELTS™



IELTS.  
The international  
license.

IELTSという名の  
国際免許証

IELTS (International English Language Testing System, アイエルツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約7,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2011年の全世界合計の受験者数は、170万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢で受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS事務局まで [www.eiken.or.jp/ielts](http://www.eiken.or.jp/ielts)

## IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビューを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるのがIELTSの強みです。



ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS試験対策コースを東京・横浜で開講中!!

[www.britishcouncil.or.jp](http://www.britishcouncil.or.jp)

勉強法や留学した人の体験談がわかる  
<https://www.facebook.com/bcofficialIELTS.jp>

公益財団法人  
日本英語検定協会

BRITISH  
COUNCIL

公益財団法人 日本英語検定協会は、ブリティッシュ・カウンシルと日本でのIELTSを共同運営しています

# 世界一フレンドリーな 魅力あふれるエメラルドの島

## アイルランド

輸出産業を中心に経済発展に成功しながらも、古くからの文化や伝統が色濃く残るアイルランド。毎年およそ20万人もの学生が留学する。日本人留学生の数はまだ少ないが、一度訪れると、誰もがそのとりこになってしまうというアイルランドの魅力を紹介しよう。



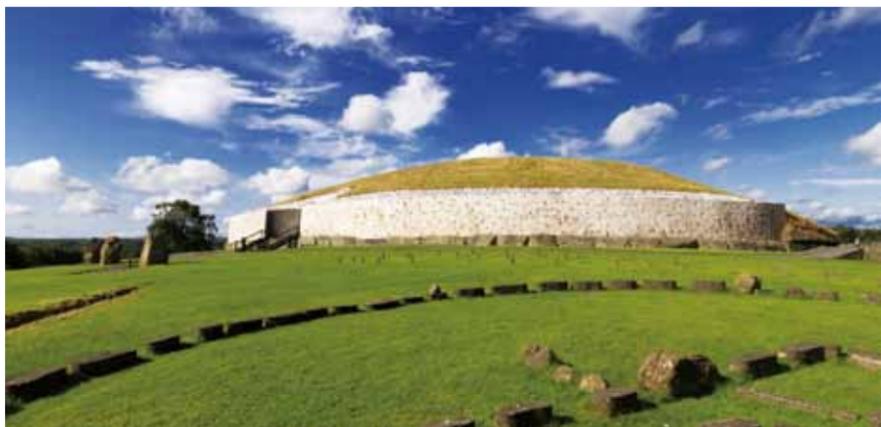
大西洋の波と風の影響を受けたダイナミックな自然景観や、ヨーロッパ随一の歴史を物語る古代遺跡が数多く残っているエメラルドの島・アイルランド。ケルト文化やギネスビール、伝統音楽や固有のスポーツなど多彩な魅力があふれている。近年は積極的な外国企業誘致などにより、「ケルトの虎」と呼ばれる経済発展を遂げた。

そんなアイルランドもかつては欧州最貧国に数えられ、職を求めて海外に若い主要労働力が大量に流出した時期があった。転機のひとつとなったのが、1960年代からの教育分野への積極的な投資だ。1990年代には大学までの公立学校の授業料を無償化したことで、高等教育への進学率は急増。いまや教育水準は世界でもトップクラスとなっている。例えば、ダブリン大学は、英クアクアレリ・シモンズ社発表の世界大学ランキングで67位に入っている。その他の大学も、多くが上位300校以内にランクインするなど、アイルランドの大学が世界的に高く評価されていることが分かる。また、1990年代はIT立国として世界第2位の輸出国となり、多数のキャンパスカンパニー（大学発ベンチャー）が企業として独立している。さらに欧州委員会の調査では、企業が採

用したい欧州の人材で最も多かったのがアイルランドの学生だったという。

こうした教育の質の高さが、留学してみたい国としての評価を高めている。「現在は約2万5,000人の留学生が高等教育で学んでいます。そのうち日本人は約190名。政府は教育分野のさらなる強化を掲げており、2015年までに3万8,000人にまで増やしたいと考えています」

そう語るの、アイルランド政府商務庁の日本代表を務めるエディ・ヒューズさん。さらに、多くの学生がアイルランドを選ぶ理由についてこう続けた。「学生にとってまず気になるのが、街の安全性や暮らしやすさです。世界の安全な都市ランキングを見てみると、首都・ダブリンは16位。東京は31位です。お金がかかる都市の順位では、1位は東京。ロンドン、ニューヨークがそれぞれ25位と33位。ダブリンはランク外の50位以下です。こういった指標から、アイルランドはさまざまな留学先の中でも比較的暮らしやすい環境といえるでしょう。さらに2008年と2010年には、旅行ガイドブック『ロンリープラネット』の読者投票で、世界一フレンドリーな国にも選ばれるなど、親しみやすい国民性でも知られています」



ピラミッドよりも古い約5,000年前の古墳「ニューグレンジ」©アイルランド政府観光庁



全長8km、高さ200mの断崖絶壁「モハーの断崖」©アイルランド政府観光庁

そして、国の規模が小さい分、実験的なサービスや新たな政策の取り組みも盛んだ。人口の9%がオーナー経営者であり、自ら起業する人も多い。「芸術や音楽で生計を立てている人も少なくありません。リスクや失敗を恐れずにチャレンジするアイルランド人の国民性こそが、多くの起業家や革新的なイノベーションを生み出しているのです」

### 日本人学生に最適な留学方法

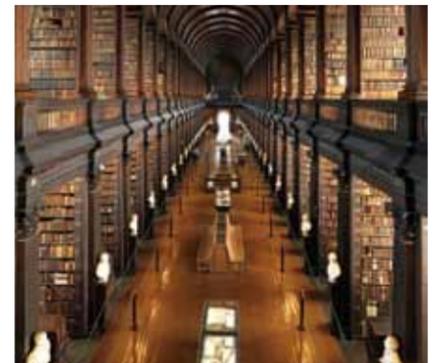
アイルランドに興味を持った日本の学生に、お薦めしたい留学制度がある。日本の大学に在籍しながら、半年から1年、アイルランドの大学に留学する仕組み「スタディ・アブロード・プログラム」だ。「現役の短大生や大学生向けの学部留学プログラムです。期間は1学期または1学年で、日本での専攻にとらわれることなく、大学の多彩なカリキュラムから希望の科目を履修できます。現地の大学生と一緒に学ぶので、通常の語学留学にとどまらない勉強ができ、なおかつ単位も取得できるなど、多くのメリットがあります」

解説してくれたのはダブリンシティ大学(DCU)日本代表のトニー・トービンさん。スタディ・アブロード・プログラムを使ってDCUに留学している日本人学生は5名程度とまだまだ少ないが、日本人の学生にこそ向いている留学方法なのだという。

「アイルランドの大学は9月～翌年1月と、1月～5月の2学期制。そのため、日本の後期授業の期間を留学に充てることができます。1学期の試験が終了するのが1月末ですから、4月からは日本の大学に復学できるというわけです。仮に大学3年の秋から留学に行くケースでも、就職活

動に大きな影響を及ぼすことなく、4年間で卒業することができるでしょう。しかも、海外で取得した単位は、認められれば卒業に必要な単位として認定されるので、時間的なロスにもなりません」

授業料は1学期のみで5,400ユーロ、1年間の場合は1万400ユーロ。これはアイルランドで語学学校に通う金額とそれほど変わらない授業料だという。学部で学べて、単位も取得でき、金額もそれほどお金もかからず、なおかつ卒業にも支障が出ない。いいことづくめに聞こえるスタディ・アブロード・プログラムだが、専門的な講義を英語で受講することから、当然、高い英語力が要求される。「通常はIELTS6.5レベルの英語力が必要となります。一方、文系の言語コースの授業であれば5.5レベルでも受講できますし、現状の英語力が足りないという場合は、まずは大学付属の語学学校で語学力を高めるといった選択肢もあります。われわれはチャレンジする人を応援したい。本気でアイルランドで勉強したいという学生さんがいれば、前向きなご提案と一緒に考えていきたいと思えます。ぜひご相談ください」



世界最古の書物のひとつ「ケルズの書」を鑑賞することができるトリニティ・カレッジ©アイルランド政府観光庁

### アイルランド政府商務庁・宇都木美佳さんのオススメ



アイルランドに行くとき必ず訪れるのがアヴォカ村。そこに雑貨ショップとカフェ、ガーデンが併設された「AVOCA」というお店があり、女性の観光客や留学生に人気のスポットとなっています。もともとは羊毛の織物工場だった同社が、買い付けに来ていたパイヤーにサービスで出していたスープが評判となり、現地の人たちに愛されるお店になりました。アイルランドを代表するブランドのひとつです。



AVOCAの手織物工場「Mill」